

○事業所名	ibe		
○保護者評価実施期間	2026年2月9日		～ 2026年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14名(うち同一世帯1件)
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童のことを常に考えた日ごと、利用児童によって活動内容を変え目標課題を立て実行している。内容によっては単体の活動もあれば、関連性のある活動を連動している。	児童の興味関心に沿った活動にねらいを持ち提供と、日々の時間の中で児童の声を吸い上げ児童同士で意見、計画、実行、まとめ、再実行を繰り返すなど、児童の主体性、話し合い、やり抜く力、協調性を大切に活動を提供することによって、楽しみながら、経験、学びなどに繋げている。	支援プログラムの狙いを見える化し、職員の意識の向上を図ることで、児童の経験や学びが深まる場を提供していきたい。
2	栄養士・食品管理衛生の資格を持った職員のもと、安心して手づくりおやつや、調理、食育など生活力をつけるための支援を行っている。	食に対する興味を持ち、衛生面、道具の使い方、調理方法、姿勢、持ち方、咀嚼、季節にあった食品、食事があることを知るため食育にも力を入れている。また、作物、穀物などが、どのようにして手元に届くのか生産者から店頭、調理後に従業員の方とお礼や情報共有までの過程を一貫性を持った経験や地域イベントで販売体験などを重ねている。	もっと食事に関心を持てるように、季節的な内容も多いのでバリエーションを増やし、年間を通して経験できることも増えてきたが、家族が参加できる交流できるイベントも含めて今以上に充実させていきたい。
3	日頃から児童の状況を保護者、学校、など関係機関と共有し、支援内容に関して記録、支援の振り返り、共通理解を持ち改善に繋げている。 また、事業所外ではぐみDAY、不定JA農家とお米の販売、ポッチャ大会の参加などイベント主催から参加を積極的に行っている。	支援前後、連絡帳、電話、送迎時などで意向や定期的におたよりや随時懇談会など、児童の発達状況や課題について話をする機会や事業所の情報をInstagramで設けている。事業所と関係の深い業者と店員として地域イベントで販売体験などを重ねている。	ひとりひとりの気づきを職員全体の気づきとして、次の支援へと繋げていきたい。 講義や、ホームワークなど一緒に学びを深める機会を増やし保護者同士のグループ交流で共有していきたい。事業所との関わりのある作家の方々のマルシェイベントをより今以上に充実させていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	セラピストみたいな専門的な職員(P.T・O.T・S.Tなど)がいないため、専門的なアドバイスがしにくい。	必要時にすぐに専門的具体的アドバイスがしづらいこと。	引き続き職員採用を検討していきながら、そういった専門的な職員がいないため事業所外とのつながりにおいて、アドバイス・相談をもらったり相談したりの関係性を構築していきたい。
2	家族(きょうだい時も含む)の活動の支援や、保護者相談会の開催等により、保護者同士の交流の機会を設けるなど、家族支援がされている。	交流の回数も増えてきているが保護者同士の交流の機会が少ない。	定期的に家族の方に事業内容、活動内容、成長、課題などを伝えられるような交流の機会を継続的に設けていく。 参加しやすい内容、日時、告知、意向確認など様々な方法で試していきたい。